



くすっ子

屈巢小学校だより
令和2年9月30日
No. 6

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巢小》

「健康第一」スポーツの秋

長梅雨そして梅雨明けの猛暑から残暑へ気温30度以上の連続、加えての新型コロナウイルス感染症予防のため常時マスク着用を余儀なくされ、私たちは体調管理に追われる毎日が続いています。これではさすがに子どもたちの体調も悪くなると思いきや、2学期開始からこれまで、屈巢小学校は出席率100%の日が数日ありました。小規模校とはいえ、児童全員が出席というのは案外と難しいものです。しかしながら、お子さんの体調が良くない時にはくれぐれも無理には登校させずに休養をお願いします。

先日、内科検診があり、本校の学校医、ひまわりこどもクリニックの磯畑先生が来校されました。その時のお話の中で、この夏は手足口病やヘルパンギーナの患者が非常に少なかったとおっしゃっていました。辞書等によると、『手足口病』は「手・足・口に発疹を生ずる幼児のウイルス感染症。発熱・咽頭通で発病し、一～二日後に口腔粘膜・手掌・足蹠（そくせき）などに、米粒状で中心白色・周囲発赤の発疹ができる。」「ヘルパンギーナ」は、「コクサッキーウイルスやエコーウイルスなどに感染することによって、発熱・喉の痛み・口腔粘膜の水膨れなどが現れる病気。主に小児の間で夏に流行しやすく、いわゆる“夏風邪”の一種とされている。」等出ています。いずれも、ウイルスが原因で発症する病気です。それでは、なぜ、患者の数が減ったのか。それは、新型コロナウイルス感染症予防対策の手洗い、うがいウイルスの侵入を防いだということです。その他には外出の自粛ということで人との接触する機会も減ったことも大いに関係があると思います。市教育委員会からの指示もあり、現在学校ではアルコール消毒は一部の箇所を除いて行わず、児童の手洗いを徹底させています。特に共有の教材を使う前と後、つまり授業の開始前と終了後に手洗いをさせています。新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、今度はインフルエンザの流行に備えなければなりません。習慣として身に付いた手洗いうがいで、今後もウイルスの侵入・感染を防げればと願っています。

病気に負けないためには体力も必要です。先の内科検診で磯畑先生が気にしていたのが、肥満傾向の児童の増加です。コロナ禍での外出の自粛、三か月間の休校、芝生化工事のため校庭での運動や遊びの制限、猛暑による運動の禁止等、悪い条件がそろってしまいました。しかし、いよいよ10月からは校庭も使用できます。朝マラソンも再開されます。業間休みには外遊びを奨励していきます。芝生の良さを最大限生かせればと思っています。

さて、1学期開催できなかった運動会を11月7日（土）に行います。本来この日は校内音楽会の予定でしたが、コロナ禍の状況の中での実施は困難との判断で運動会としました。規模を縮小しての半日開催となります。何卒ご理解・ご協力をお願いいたします

マラソン元日本代表の君原健二さんは、東京オリンピック第8位、メキシコオリンピック第2位、ミュンヘンオリンピック第5位という輝かしい結果を残しました。引退会見で、記者から「今まで走って来て何が残ったか？」の質問に、即座に「健康です。」と答えたそうです。（君原さんは25歳でアメリカのボストンマラソンに優勝、50年後、75歳で招待ランナーとして参加した同大会を4時間53分14秒で完走しています。）

「健康に勝る宝なし」スポーツの秋 体力向上を目指します。

（校長 橋本 浩）